看家広報
●人々の暮らしと人生を応援!
はなえみ
2025
11月号
隔月刊
NO.165
公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会

◆ Special Interview
人手不足については役人と議員に強く訴えることが急務だ!
働く環境と報酬の改善が必要!財源を考える役割は役人と議員。

ジャーナリスト **田原 総一朗**さん....1

●MOVEMENT....6
80歳代で活躍中の家政婦さんにインタビュー
いくつになってもお客様に感謝され、
報酬も得られるこの仕事を続けたいと思います。
●SPOT LIGHT....7・8
大阪・関西万博で、興味を持って未来の
医療と介護を考える機会が得られた。 REPORT
●「家政士」感動体験レポート....9
有限会社稲木ケア・サービス　中川 敬子さん

花知識◆ニチニチソウ(日々草)
●初夏から晩秋までの間、暑い時期／時季を乗り越えて次々と
連続的に花を咲かせる一年草で、夏のガーデニングや
花壇、鉢植えの花としてふさわしいと
多くの人に親しまれ愛されている。
高温や乾燥に強く、様々な色の一重や八重の
花をカラフルに咲かせるので、
配色を楽しんで植える人も多い。
日当たりの良い水はけのよい場所を選べば、
園芸初心者の場合でも育てやすい花だが、
寒さが苦手なので、気温が10度以下になったら
室内の日当たりの良い場所に
取り込むことが必要だ。
●花ことば:白「生涯の友情」
ピンク「優しい追憶」、赤「楽しい思い出」
●植物分類:キョウチクトウ科カサランサス属の一年草
●原産地:マダガスカル

Special Interview

人手不足については役人と議員に強く訴えることが急務だ!

働く環境と報酬の改善が必要!財源を考える役割は役人と議員。

ジャーナリスト 田原総一朗さん

「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）の司会でお馴染みのジャーナリスト、田原総一朗さん。テレビディレクターとして、数多のドキュメンタリーを製作し、書き手として200冊以上の本を書き、テレビ番組「朝まで生テレビ」や「サンデープロジェクト」の司会やコーディネーターとして、永田町を動かすニュースを発信し続け、歴代総理に対して意見具申もしてこられている。そんな、生々しい実際の議論から、論争から、もちろん活字から、私たちは様々なことを学ばせてもらってきた。

2024年には、90歳を記念して『全身ジャーナリスト』という著書も発刊されるなど、生涯現役を貫いていこうと91歳の今も挑戦中。

「エネルギーの源泉は好奇心」と語る91歳は、時代の先端をまだまだ疾走中だ。

高齢社会の生き方を自ら実践中

――日本の高齢化社会の現状や対策について、どのようなお考えをお持ちですか?

この分野はいちばん苦手だ。僕自身は超高齢だし、最近になって認知症の気がないではない。だからといって、ひたすら恐れることはないと思っている。僕なりの認知症にならないための方策もとっている。毎日何人もの人に会っている。それもなるべく問題を抱えている人と会うようにしている。彼らは真剣だ。それがこちらにも伝わってきて、心身を活性化してくれる。「問題こそが蘇生の始まり」なのだ。そして、「精一杯生きることが理想の終わり」だ。

僕の年になると、尊厳死ということも考えるが、はっきり言えるのは、直る見込みが100%ないのに延命措置をして生かし続けているケースがあり、それが医療費の高騰にもつながっているということだ。

僕はそれを拒否する権利は柔軟に認めるべきだと

▶田原総一朗（たはら・そういちろう）プロフィール：
ジャーナリスト、評論家、ニュースキャスター。1934（昭和9）年4月15日生まれ。滋賀県彦根市出身。早稲田大学第一文学部史学科卒業。岩波映画製作所を経て、1964年、東京12チャンネル（現：テレビ東京）に開局とともに入社。ディレクターとして数々の先鋭的な番組制作を手掛ける。1971年、ATG映画『あらかじめ失われた恋人たちよ』を劇作家の清水邦夫と共同監督。1979年、東京12チャンネルを退社しフリージャーナリストに。1987年『朝まで生テレビ!』（テレビ朝日系）をスタート。日本国際フォーラム参与、政策委員、日印協会顧問、外国人雇用協議会顧問、NPO法人万年野党会長などを歴任。2002年より早稲田大学大隈塾塾頭、2003年より株式会社ドリームインキュベータの社外取締役も務めた。

思う。だから本番の放送中に突然死という理想的選択肢はいまだ捨ててはいない。

不思議なことに、自分で死に方を決めてその通りにやってやるぞと思うと、どこか死ぬことが楽しみになる（笑）。待ち遠しいとは思わないが、少なくとも死ぬことが怖いという気持ちがなくなった。

――秘書的な仕事や日常のサポートは、ご家族、奥様がいらしたときは奥様、今は、娘さま方がサポートされていますね。

僕にとっては、妻は精神的にも仕事上でも、なくてはならないパートナーだった。文字通り二人三脚でやってきた。

彼女の晩年、闘病中に、僕は献身的に介護をした。それは、恩返しだった。ちっとも恩は返せていないけどね。

彼女を失ったときの悲しみと喪失感は凄まじいものがあった。心の中に大きな穴ぼこができて、もう生きていてもしょうがないと思ったこともある。この時も仕事が僕を救ってくれた。ニュースと日々格闘することが僕の心を癒した。それから、秘書的な仕事は娘たちがやってくれるようになった。家族や娘のサポートはありがたい。

初めて言うけど、娘たちに犠牲を強いているかな?（すかさず、娘さんから「あら、初めて聞いたわ」「話を盛っているでしょう!!」…）

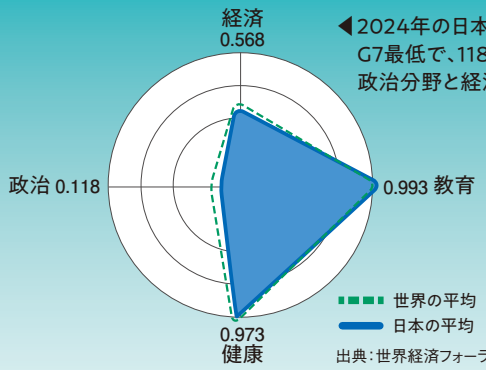
もちろん、第三者のお世話にもなった。自費の家政婦さん、介護保険サービスのホームヘルパー兼務だった。とても助かったのは、とても細やかな心遣いができる人だったから。

――今、どの分野でも人手不足が深刻です。経済は停滞し、物価は上昇、それなのに、特に、職業紹介業のような中小企業・弱小企業は働く人も高齢化し、新しい若い人も入ってきませんし賃金も上げられません。

日本の人手不足と、世界の人手不足の状況は違う。日本の場合は、正社員で就職できず、非正規の短時間労働で働く人も多い。正社員と非正社員では報酬の差が大きく、介護ヘルパーや家政婦の人たちは、正社員でない人も多い。人手不足を解消するには、報酬の良い安定した仕事にしていく必要がある。これからの高齢者が増えていく時代に向かって必要とされる仕事で感謝される仕事なのだから、働く人が安心して働ける環境づくりが必要だ。

外国人人材も増えてきており一般家庭が雇用主になる場合も多いので、労災問題にどう対応するかもしっかり考えていく必要がある。労災の補償は雇用主となる方の負担が基本だと思うが、一般家庭の場合には、適切な対応や保障が難しい場合もあると考えられるので、トラブルを防ぐために、国の支援や助

● 世界のジェンダーギャップ指数2024
における日本のスコアを表示



◀2024年の日本のジェンダーギャップ指数は、
G7最低で、118位に低迷している。
政治分野と経済分野の改善が求められている。

出典：世界経済フォーラム Global Gender Gap Report 2024

▶『全身ジャーナリスト』
¥1,210
著者：田原総一朗
出版社：集英社新書

成金、業界のサポートも含めたルール作りが必要になっていくだろう。一般家庭の家事・育児・介護などのサポートについて役人たちは詳しく知らないことが多い。こうした家庭の実情について詳しい女性が行政の仕事に関わり増えていくことが必要だ。役人にも女性がもっと必要だが、役人を動かす立場にある議員にも、さらに女性が増えていくことが必要だ。

年齢差別のない社会にしていけば人手不足を解消できる

日本は働く高齢者が増えてきているが、まだまだ日本企業の多くは年齢を重視して採用していることが多い。一般家庭をサポートする仕事は、高齢女性の能力が活かせる場といえる。高齢になっても安心して長く働いていける職種であることを、幅広く社会に知らせていくことが必要だ。

業界に人が集まらないなら、もっとどんどん声を上げるべきだ。役人や政治家に積極的に働きかけ、彼らをもっと働かせるんだ。問題になっている財源などはどうにでもなる、それは役人も知っている。役人はそれを考える仕事なんだから。

百万言を費やすより、実践あるのみだ。

年金制度はさらに深刻に！もう保たない

少し前までは「子どもの出生数が100万人を切ったら大変だ」といわれていた。それが現在「80万を割った」というのだから、これはもう国家存亡の危機だ。

年金問題はさらに深刻になる。寿命がどんどん延びてきて年金を貰う人が増える一方、少子化で掛け金を払う人が少なくなるのだから、今のままでは制度

破綻は必至。5〜6年後には、受給開始年齢は75歳にもなってしまうと思う。

今の大企業では65歳まで働けるが、じきに定年は75歳になるだろう。

最新の研究によると、人間の寿命は140歳くらいまで延ばせるそうだ。国民の大半が年金受給対象者という笑えない未来も、可能性としてはあるわけだ。

75歳までは働く環境をつくらなければいけなくなる。できれば80歳まで。

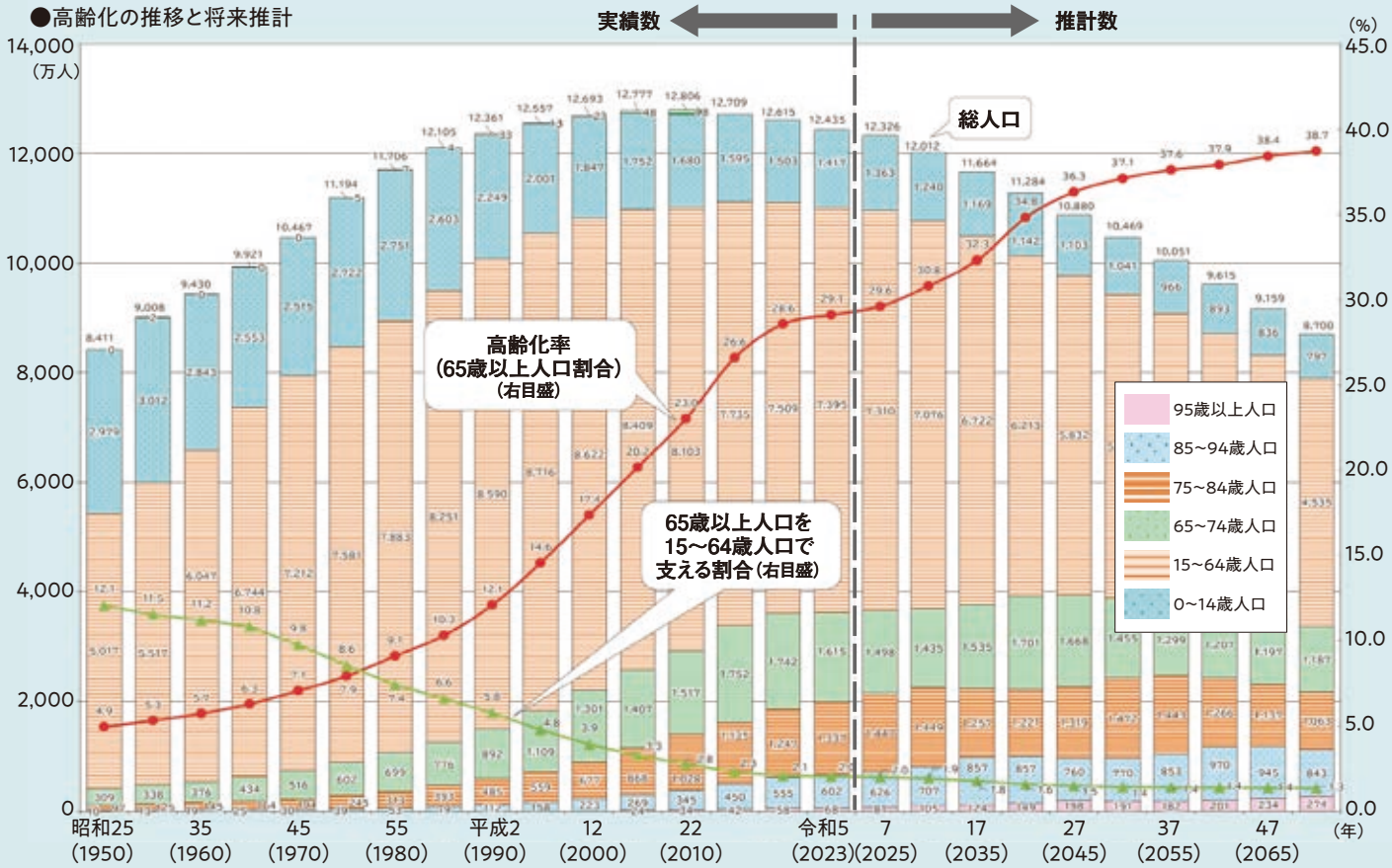
家政婦（夫）の方々は、80歳を超えても活躍する方がおられるそうだから高齢化の時代に活躍できる仕事分野といえるだろう。

ちなみに、僕は現在91歳だが現役だ。昨年は、90歳を記念して『全身ジャーナリスト』という本を出している。

女性ならではのネットワークを活かせ

日本のジェンダーギャップ指数が低いのは、政治と経済における男女格差が大きいからだ。

男性の既得権益を打ち破るために、女性にはぜひとも立ち上がっていただかなければならないが、一



資料：2020 年までは総務省「国勢調査」、2023 年は総務省「人口推計」（令和5年10 月1日現在（確定値））、
2025 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

▶『コミュニケーションは正直が9割』
¥1,518
著者：田原総一朗
出版社：クロスメディア・パブリッシング

▶『老人の知恵』
¥1,430
著者：田原総一朗、養老孟司
出版社：毎日新聞出版

人ひとりの奮闘努力だけではうまくいくものではないだろう。

女性同士がお互いの力を活かし、協力し合って、チームワークで臨むことが必要だ。

旧態依然の男性には弱点がある。同じ組織の仲間うちで仕事も遊びもやってきた男性は、定年を迎えたとたんにやることがなくなってしまい、仲間もいなくなる。ゴルフも麻雀も一人じゃできないから、暇と孤独を抱えて、ついには鬱になってしまう人も少なくない。でも、女性にはそれがない。なぜなら、女性はネットワークづくりが上手だから。女性にとっては、これからが大チャンスだ。

未来に向かって何を残していくべきか?

――次代の日本のために、今現在、何に取り組んでおられるのか、未来に、何を残そうとされているのか。ライフワークなどをお聞かせください。

いろいろなタブーに切り込む精神だけは捨てずに、反骨のジャーナリストとして、我ながら、これまでいろいろやってきて、よくぞここまで生き延びてきたと思う。

政治的なアジェンダ（課題）は多々ある。エネルギー政策、経済政策、米国との安保政策、選挙制度などなど。なかでも僕がいまぜひとも何とかしなければならないと思っているのが、ジェンダーギャップの解消だ。日本はあまりに男女格差が激しすぎる。政治の世界がその典型だ。

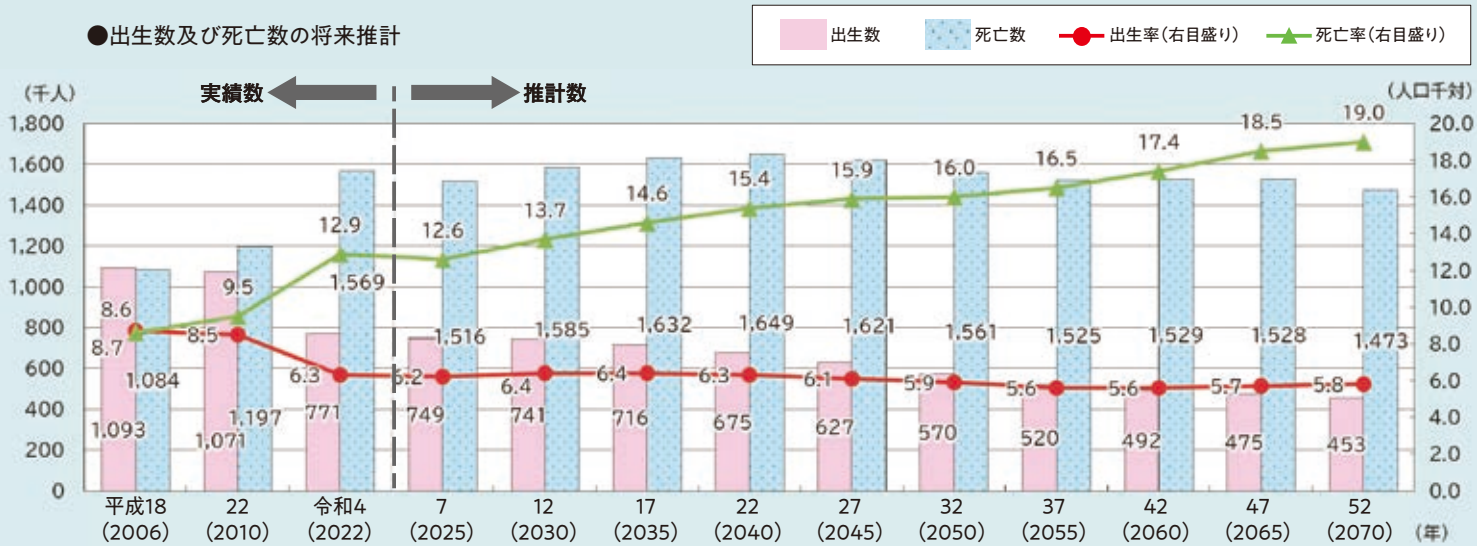
長生きの秘訣は、好奇心と言いたいことの言える生活

僕が若くいられる秘訣は、地位を求めなかったこと。地位があると言いたいことも言えなくなる。好奇心を持ち自由な立場で自由な発想をしていきたい。

だから今も毎日できるだけ人に会い、いろんな問題を考える毎日にしている。現在、娘たちが僕を交替でサポートしてくれているが、毎日娘たちに怒られまくっている（笑）。だからこちらも怒鳴りつける（笑）。そういう言いたいことが言える関係・毎日の暮らしがいい。

（インタビュー／古賀道　写真／渡邉英昭）

●出生数及び死亡数の将来推計



資料：2006 年、2010 年、2022 年は厚生労働省「人口動態統計」による出生数及び死亡数。2025 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

MOVEMENT

80歳代で活躍中の家政婦さんにインタビュー

いくつになってもお客様に感謝され、報酬も得られるこの仕事を続けたいと思います。

**仕事があれば気持ちがシャンとして、頭と体の健康管理が自然にできる。
動ける間は続けることが、自分のためにもなるのが家政婦（夫）の仕事。
このことを、日本社会全体に幅広く発信していきましょう！**

●石川県：（有）ケアサービス金沢　稲田輝子さん

今の仕事を始めて十数年になります。家事や食事作りは嫌いではありません。

その前は小学校の学校給食の仕事をしていました。家政婦の仕事を始めた頃は、こんなに長く続けるとは思っていませんでした。今の仕事は、長時間の仕事は殆ど無いし、冷暖房のある所での仕事なので、体にもきつくないので続けることができます。

今担当している私のお客様は高齢の一人暮らしの方が多いですね。ほとんどの方がお弁当の宅配を注文しておられるので、食事作りは全くなくて、買い物やお掃除の仕事が中心です。

仕事があると、朝から気持ちがシャンとする

こうして仕事を続けている理由を考えてみると、もともと、私は家事労働が嫌いではないし、毎日起きて仕事があると、気持ちがシャンとするのがいいんです。この年齢になっても人のお役に立つことができて、報酬も得られることを、ありがたいことだと思っております。

車に乗れるので、10キロ以内の範囲でお客様のところに行っています。元気なうちはこの仕事を続けたいと思っています。

同世代のお客様には話し相手として、真心を込めてお話をします

生ごみの日や資源ごみの日とかに合わせて、頼まれることもよくあります。

私は車に乗っていくので家の中にごみがのこらないように、ごみを車に乗せ捨ててあげることもあります。お客様とは世代が近く、一人暮らしのお年よりの気持ちがよく解るので、お金を出して呼んでくださっていることに、申し訳ない気持ちになります。

だから頑張って、喜んでいただけるいい仕事をしたいと思いますね。

いつも1人で話し相手を欲しがっておられる方もおられるので、真心のこもったお話ができるよう心掛けています。

家族の一員のように幅広い仕事を頼めるので感謝されています

介護保険のヘルパーさんは、「お花の水を変えてください」とか「息子夫婦が来るので、2階の部屋の掃除をしてください」と頼んでも、仕事の範囲外だからと断られるそうです。幅広い仕事を頼めるので、家政婦（夫）の仕事は喜ばれ、感謝されています。

長く通っているうちに、お客様の認知症が進んだり、病気が重くなって施設に入られたりということがあります。家族の方々が近くにおられない場合は、ご家族も心配で施設に入ってもらった方が安心なんでしょうね。私がお手伝いすれば、まだ一人暮らしできるのになあと思うこともあります。

健康管理に留意し、定期検診を欠かさず、食事の栄養バランスにも気をつけています

働く上では、自分の健康管理をしっかりしなくてはと思いますね。定期健康診断は必ず行っています。3か月に1回は、血液検査を受けています。腰痛持ちですが、仕事があることをうらやましがられています。食事には気を付けていて、スーパーのお惣菜などは買わず全て自分で調理して食べています。小学校の給食の仕事をしていたので自分の健康的な食事を創る上でプラスになったと思っています。サプリメントは一切使っていません。

忘れっぽくなると困るので、夜中にゲームをし楽しんでいます。前頭葉にいいそうですね。

家庭菜園もしています。トマトやナス、キュウリ等大きく育っていくのを見るのが嬉しいです。

SPOT LIGHT

大阪・関西万博で、興味を持って未来の医療と介護を考える機会が得られた。

REPORT

果たして成功できるのか？と危ぶまれた大阪の関西万博だったが、入場者数の目標を達成！チャレンジなくしては、時代を前に進められないことを示していた。

リポート：板井仁志

日本の歴史的なイベントに興味をもって足を運んだ

2025年の今年開催された大阪・関西万博は、開催当初はいろんな批判や不安の声にさらされる中で出発した。しかし入場者数も目標を超え、赤字になることもなく、キャラクターのミャクミャクも人気で、おおむね成功のうちに終了した。

会場に足を運んだ人たちの口コミが拡大し、日本で開催される歴史的なイベントとして、外国人も含め、足を運び見ておくことが必要と考える人たちが増えていったのだ。8月の暑いさ中、「百聞は一見にしかず」と会場をこの目で見ておこうと、訪れてみた。まず会場全体を円形で包む木でつくられたの円形回廊のスケールの大きさはさすがのインパクトがあった。エスカレータで昇った回廊の上からは様々なデザインの各国の館を見渡すことができた。

この万博のテーマは、「命耀く未来社会のデザイン」

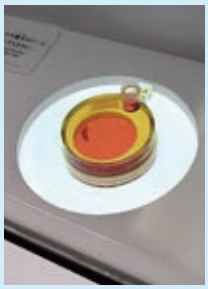
大阪ヘルスケアパビリオンでは、ノーベル賞を受賞した山中伸弥さんのIPS細胞の研究成果を紹介する展示が印象的だった。

2万個ある遺伝子の中からIPS細胞を創る4個の遺伝子を発見したことで、心臓や肝臓、骨や血液など身体を構成する様々な細胞に分化できるというもので、今後の再生医療や創薬への活用が期待されている。

花びらのようなIPS細胞による心筋シートの実物が展示されるとともに、鼓動を助ける役割を果たすことを示す動く心臓なども展示されていた。

IPS細胞を活用した臓器は、体の一部となって恒久的に機能するようになり、人類の延命に貢献していくことを実感した。

▲IPS細胞活用の可能性は人類の延命を推進▲



▲AI活用の人間洗濯機等は未来の介護用品

AIを活用した様々な開発中の介護用品を紹介

「AIを活用した人間洗濯機」や盲導犬の役割を果たすキャスター付きバッグなど、今後の時代に向けての様々な介護用品が開発中であることも紹介されていた。

介護や生活サポート要員の人材不足が不安視される中、将来に向かって、身体機能の維持強化や介助に結び付く様々な技術の活用・進化が研究されていることが解った。こうした技術の進歩については、これからも見守り、仕事の現場に将来取り入れていくことが必要になるだろうと感じた。

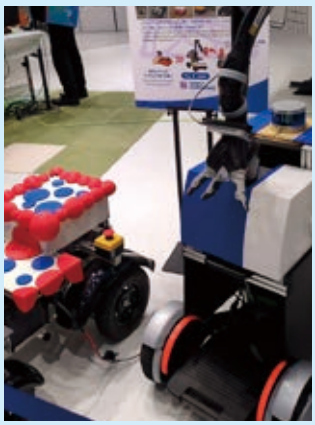
それぞれの国の誇りと可能性を背負った懸命なお国自慢が万博を成功させた

人気の館は予約を取るのが難しかったため、小さな館をいくつか見て回ったが、それぞれの国が自国の素晴らしさを一生懸命に紹介しようとしているのが感じられ、好感を持った。

それぞれの国の違いを楽しみ、新しい技術や文化を共有していくことは、これからの時代を創っていく子供や学生たちの健康的な意欲を育てることに繋がっていくと感じた。

大阪は、このイベントを行ったことにより、世界から多くの観光客を集め、大阪という都市と、今の日本の姿を幅広く紹介し、世界の人々と共に新たな気づきを共有させてくれた。また副首都を目指す存在感とエネルギーを日本社会に示すことができたのではないだろうか。

万博を見たことで、我々の業界も、アイデアを出し合い、仕事を楽しみながら、新しい技術や方法を取り入れていくことが大切だ。そう思う機会に巡り合ったと感じている。



▲盲導犬の役目を果たすキャスター付きバッグや身体機能をサポートするロボットなどが公開されていた。

▲木の大回廊をエスカレータで昇るとかなり広く、会場の様々な各国の館を一望することができた。

「家政士」感動体験レポート

家政士試験に挑戦し、合格したことで、さらに自信と誇りが得られ、成長に結びついています。

●福井県　有限会社稲木ケア・サービス　中川 敬子さん

私は厚生労働省が認めた家政士という資格があることを知りませんでしたので、責任ある専門的な仕事なのだと、より意識が高まりました。

また同時に知識ほか技術を高め、自分の力を向上していきたいと思いました。

家事能力。細やかな気づかい。チームワーク。相手の思いに寄り添うこと。一つ一つ現場で悩みながら前進している自分を感じ、仕事の充実を感じています。

受験のためにテキスト 4 冊を勉強しましたが内容のレベルが高いなぁと緊張しました。学びの成果が出せてホッとしています。

合格と聞いた時は、飛び上がるくらいうれしかったし、資格をいただけて誇りに思いました。仕事への意識もより高まり、家族も喜んでくれました。

合格したことで、意識が高まりもっと研鑽を積んでいかないといけないと、自分の課題発見にも繋がり挑戦しています。

事業所では自己研鑽の研修を月に一回組んでくださりレベルアップを後押ししてくださっています。

家政士の資格を取得して良かったと思うのは、「意識のレベルが違う」ということ。人の役にたてるよろこびは、かけがいのないものです。研鑽を積み重ね感謝の気持ちで仕事に向き合っていきたいと思っています。

さらに、高齢者の多い社会に向かっていく中で、助け合いみんなで支え合える社会になっていくといいなぁと思いますし、理解ある人たちで繋がっていけるとよいと思います。

この資格はこれからの社会にとって必要だと思いますし、社会から求められる仕事であると思います。専門的な資格を持った「家政士」は時代が求める仕事だと思います。

研鑽を積んで自分を高めていける仕事だと、よろこびを感じています。

税法上の優遇措置が適用される

当協会への寄附金をお願い申し上げます。

一人暮らしの高齢者や子を持つ共働きの家庭等が増加する中で、安全で良質な介護や子育て等の家事支援サービスへのニーズと期待が高まっています。

当協会は、設立以来看家紹介事業の発展及び看護師・家政婦（夫）の就労機会の拡大、福利厚生の向上のために様々な事業を展開してまいりました。こうした事業には、主に会員の皆様の会費と事業収入を充ててきておりますが、厳しい財政事情の中にあり、活動内容の充実・強化を図るため、会員の皆様方に、ご寄附をお願い申し上げます。

◆当協会は税法上の「特定公益増進法人」と位置づけられていますので、当協会への寄附金には、税制上の優遇措置が適用され、所得税（個人）と法人税（法人）の控除を受けることができます。

●皆様からの寄附金は当協会の「寄附金取り扱い規定」に則り、有効に活用させていただきます。
また当協会への寄附に対して、「感謝状」を贈らせていただきます。

お振込先 三井住友銀行 麹町支店 普通 136121 日本看護家政紹介事業協会

●寄附の詳細につきましては、協会ホームページ（http://kanka.or.jp/kifu）をご覧ください。

コミュニケーション・テーブル
Communication Table

「まっいいか」と笑顔で受けとめる包容力を！

2025年9月21日の「世界アルツハイマーデー」に合わせ、認知症の状態にある方がホールスタッフを務めるイベント型レストラン「注文をまちがえる料理店　ま、いっかの日」が全国各地で開催されました。

届いた料理が自分の注文したものでなくても、「こっちもおいしそうだし、ま、いっか」と受け止め、みんなが笑顔になっていく……そんなちょっと不思議な瞬間が、この店内では当たり前の光景として広がります。

このプロジェクトが目指すのは、「誰もが自分らしく輝ける」場所が増えていくこと。もちろん「自分らしさ」の形は一人ひとり異なるなかで、年を重ねて静かに過ごしたいと考える人もいれば、認知症があってもできる限り働き続けたい人もいるはずです。そうした選択肢がどのくらいあるかが、私たちの社会の豊かさを大きく左右するのではないでしょうか。

私たち家政婦紹介所でも認知症のいるご家庭に入ることも多々あると思います。

家政婦（夫）も知識を高めて広い心を持って対応できることも今後大切だと思いました。　（投稿　匿名の方より）

★皆様からの投稿をお待ちしています。

お便りと今号のご感想・要望など看家協会事務局（E-mail：post@kanka.or.jp）まで、メールでお寄せください。また郵送の場合は協会（下記）までお送りください。

〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2
公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会　はなえみ投稿係

編纂委員会（50音順、◎印委員長）
板井仁志、古賀道、渋谷洋子、◎清水保人、高橋和子、宮本和明、茂木芳枝、渡邉嘉子（編集顧問）

編集後記

猛暑というほかなく、今年の夏は暑かった。日本は亜熱帯化し、“四季”は、もう消えるのかしらん。先日、第10回家政士検定試験も無事に終了し、1月末の合格発表を待つだけになりました。前号では、節目ということで、家政士の今後を展望する絶好の巻頭企画座談会がありました。さて、今号スペシャルインタビューは、あの、田原総一朗氏。初めは、夏バテぎみとかで、いつもの舌鋒は秘めておられたようで、穏やかな感じでした。が、話し出すと熱を帯び、年齢を感じさせない、力強い活力に満ちた表情に変わります。“超高齢”と自ら発言されますが、同世代に比べても、とてもとても、お若い！聡明で知性にあふれ、なんとも言えない愛嬌のある可愛らしい方、というのが私の印象です。握手してくださったが、ハグしたかったな、そんな思いが残りました。　（編纂委員・古賀道）

カコさんとカンタさんのつぶやき
KAKO & KANTA

気温に敏感に対応する ライフスタイルを考えていこう！

- 長い夏が終わったと思ったら急に冬がやってきたみたい。
- 秋がなくなったような気がするね。
- 空気が急に乾燥してきて、朝起きると喉の奥が乾いてイガイガしてるみたい。
- インフルエンザが流行ってるというね。喉が痛くなる人が増えてるそうだよ。
- またコロナの時みたいなマスク生活になってしまうのかも。
- 驚いてばかりいないで対策を考えていかなくてはね。基本はやっぱりうがいと手洗いだと思うよ。
- 外から帰ったらまずうがいをして手を洗わなくちゃね。
- 何を着るか？もよく考えなくてはね。加湿器と暖房器具の組み合わせも。
- 食べ物も季節に合わせて考えなきゃね。コンビニのおでんや肉まんもいいわね。それにラーメンに鍋物！
- 薬膳では粘膜や体の内側を潤すもち米。ネギ・生姜などの薬味に、長芋・蜂蜜・ヨーグルト・アスパラガスがいいって。

看家広報 はなえみ165号 Hanaemi Bimonthly165
2025年11月25日発行

発行　公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会
〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2
TEL　03-3353-4641
FAX　03-3353-4326
URL　https://kanka.or.jp/
E-mail　post@kanka.or.jp

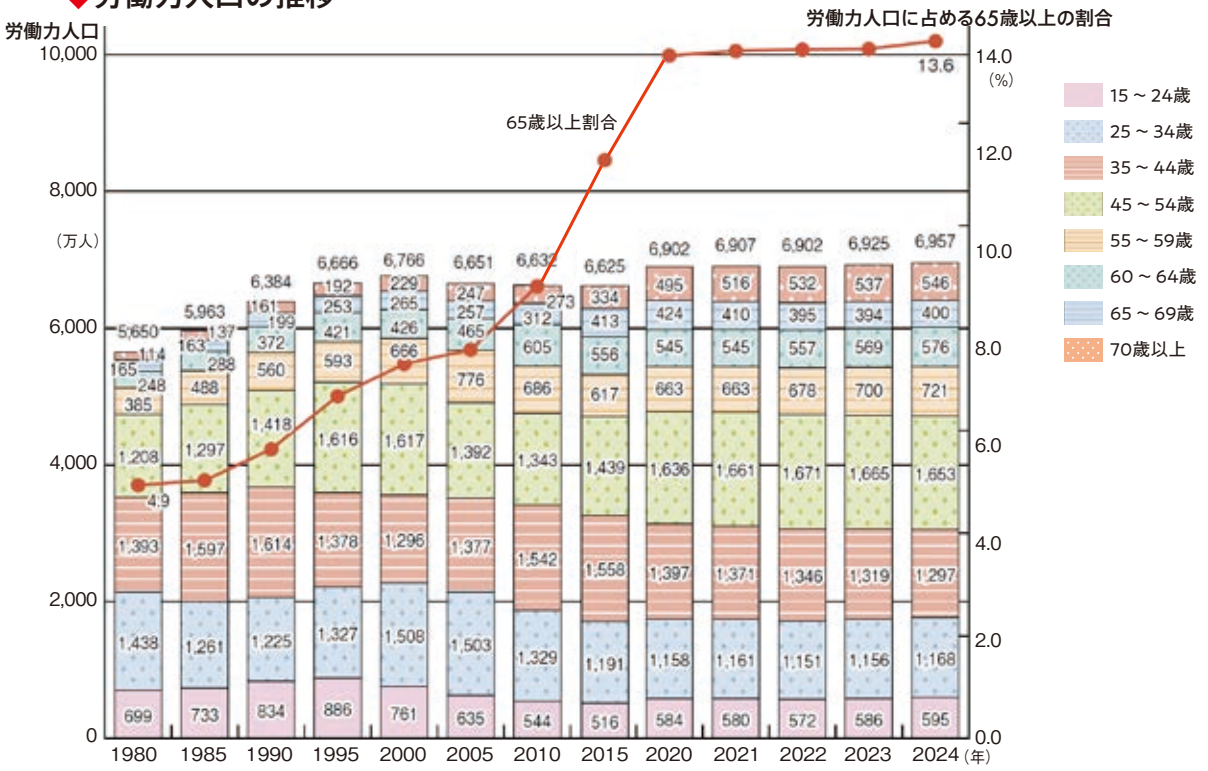
制作会社：株式会社ヒューマン・コミュニケーション研究所
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-7-14ライオンズ原宿402
研究室：〒104-0045 東京都中央区築地2-15-10-1602
TEL：03-3545-8038
E-mail：yoshiko.w@human-c-labo.net

知っておこう! DATA 社会のニーズ

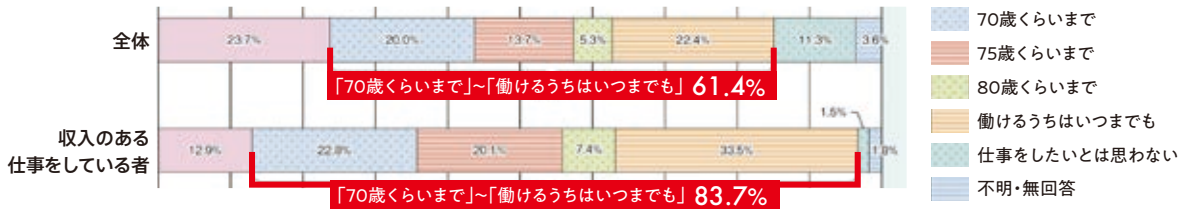
長命化に伴ってアクティブシニアの就業率が上昇中!

◆令和６年の労働力人口は6957万人で、そのうち65～69歳の人は400万人、70歳以上の人は546万人で、65歳以上の割合は13.6％と上昇傾向にある。◆何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいかを聞くと、「70歳くらいまで」～「働けるうちはいつまでも」と答えた人は、全体に聞くと61.4％だが、収入のある仕事をしている人に聞くと83.7％にのぼり、高齢になっても積極的に働き続けたいと考える人が多い。◆60歳以上の人の経済的な暮らし向きを聞くと、家計にゆとりがなく心配と答える人が約3分の１存在する。長命化する時代の中で経済的不安をなくすために働こうと考える人も多いことがわかる。

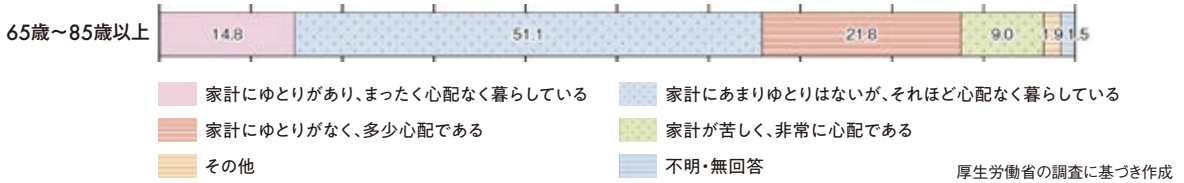
◆労働力人口の推移



◆何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいか(択一回答)



◆60歳以上の人の経済的な暮らし向き(択一回答)



厚生労働省の調査に基づき作成

公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会

看家協会YouTubeチャンネルをどうぞご覧ください。

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です